

第46回日本水環境学会年会学生ポスター発表賞(ライオン賞)を受賞して

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 天 野 巖 斗

この度は、日本水環境学会年会学生ポスター発表賞(ライオン賞)を授与いただき、誠にありがとうございます。ライオン株式会社の皆様、学会関係者の皆様、そしてポスターを見ていただき拙い説明を聞いてくださった皆様に、厚くお礼申し上げます。

東日本大震災による原子力発電所事故にともない、東京都金町浄水場において放射性物質が検出されました。私は地震以前から水道水を含む飲料水への消費者のリスク認知を研究しておりましたため、検出を受け、放射性物質検出のリスク認知への影響、さらにボトル水の大量購入といった水道水忌避行動に対する影響について研究いたしました。リスク認知に作用する因子として恐ろしさ因子と未知性因子を想定した因子分析を行ったところ、放射性物質検出により水道水へのリスク認知構造が変化し、恐ろしさ因子得点が大きく高まったことがわかりました。さらに、忌避行動を取った人々は地震以前からリスク認知が高く、とくに食事への水道水使用を控えている人々は検出後のリスク認知が顕著に高いことがわ

かりました。また、乳幼児の同居人の有無、年齢によるリスク認知の変化への影響も示唆されました。

東日本大震災の影響は多岐にわたり、水道水中の放射性物質に限ってもさらなる研究が必要です。今回の学会発表において、さまざまな先生方から貴重なご指摘、ご意見をいただき、またさまざまな研究発表を聞かせていただくことで、自らの不出来を深く恥じ入るとともに、研究の必要性、重要性を改めて認識いたしました。今回発表させていただいた内容は、一定の結果が得られたとはいえまだまだ研究途上です。分不相応ではありますが、今後この研究を発展させていかなければならないと考えております。

最後に、怠惰な私を諦めず熱心にご指導してくださった先生方、長く面倒なアンケートに答えてくださった東京都23区の皆様、私がつらいときに唯一励ましてくれた我が家の猫に深謝いたします。ライオン賞の名に恥じぬよう、今後一層の精進努力をすることをここに誓います。